

特別講演

子規 ー病牀六尺の革新

竹田 美喜

松山市立子規記念博物館館長

正岡子規の俳句革新、短歌革新の偉業は
結核に侵された苦痛の中、迫り来る死との闘いの中で
成し遂げられたものである。

34歳と11ヶ月で亡くなるまでの数年、彼は「病牀六尺」、敷布
団一枚の
世界で近代俳句、近代短歌の礎を築くのに命を懸けた。
それは、文学界の批判を浴びながら、我が身の衰弱にあらがいな
がらの
壮絶で孤独な闘いであった。